



01 観光促進と環境保全の両立に向けて

フィリピン・ボホール島が取り組む本気のエコツーリズム

藤原 純子 (OPMAC 株式会社 上席コンサルタント)、鹿野 詩織 (同社コンサルタント)

Pilipinas

フィリピン有数の大きな島であるボホール島には、美しい自然や希少動物が見られる観光スポットが数多くあります。

ボホール島は「コーラルトライアングル（サンゴ礁の三角地帯）」海域の一部に位置し、海洋生物多様性が極めて高い上に、石灰岩のカルスト地形、沿岸のマングローブ、熱帯雨林なども広がり、陸上の生物多様性も豊かです。円錐形のチョコレート・ヒルズや、二重に形成されるバリアリーフなど、独特の自然景観が形成され、多様な固有種を含む豊かな動植物も存在します。世界最小クラスの霊長類ターシャ（メガネザル）がその代表例です。この島の孤立した環境は固有種の進化を促進し、またフィリピン諸島を通過する渡り鳥にとって重要な中継地にもなっています。

ボホール州政府観光事務所は2000年代前半から州全土でエコツーリズム振興プログラムを始めました。ボホール州内の観光資源の「再発見」とエコツアー開発への取り組み、「エコカルチャルツーリズム」の推進が動き出したのは、約10年前の2016年です。ボホール州環境法典の改訂版によれば、エコカルチャルツーリズムは「生物多様性の保全と、地域固有の自然・文化遺産の持続的な活用を両立させる観光」と位置づけられています。同改訂版では、地域コミュニティが主体となって観光資源の管理・運営に参画し、観光による経済的利益が地元へ還元される仕組みづくりが重視されています。また、観光地の開発・運営にあたっては、環境保全基準の遵守、文化遺産の保護、訪問者数や活動内容の適切な規制、環境教育の推進などが奨励されています。市町村レベルでもエコカルチャルツーリズム計画の策定が目標とされました。こうした取り組みは、地域の持続可能な発展と、観光客と住民双方の満足度向上を目指すものです。

ボホール島は2023年にフィリピン初のユネスコ世界ジオパークに認



チョコレートヒル



ロボック川から臨むボホール島の豊かな自然

定されました。2025年9月時点で、国内で認定されているのはまだここだけです。2023年には観光旅客数が100万人を突破するなど、コロナ禍後のリベンジ観光にも直面する中、豊かな自然を残しつつ、多様な観光ニーズに対応するための試練が続いています。例えば、1990年代後半に始まり、長年人気を集めてきたクジラの餌付け+ホエールウォッチングのツアーは、近年の観光客急増によって環境やクジラへの悪影響が確認されたことから、2025年3月にボホール州条例で禁止されることになりました。環境問題に対して、観光を犠牲にしてでもできる限りの措置を講じる、ボホール州の「本気」を垣間見た気がしました。

観光事業者にとっては厳しいとも取られかねない措置を実行できた背景には、地域社会や行政、観光事業者が一体となり、島の未来を守るための議論と行動を重ねてきた歩みがあります。島の人々と話す中で、彼らが豊かな自然を心から誇りに思い、その自然を次世代へ継承していくことがボホール島の発展に不可欠だということを感じました。こうした誇りと責任感を原動力に、ボホール島がフィリピンのエコツーリズムを牽引していく姿を、一観光客としても、応援し続けたいと思います。



ボホール州政府観光事務所の皆さん



ユネスコ世界ジオパーク認定ポスター



森林再生の一環で植林されたマホガニーの森